

更生保護女性会会長賞

堺市立 平岡小学校 六年

西尾 咲香

思いやり

「大丈夫。」

お腹が痛くて、休けい時間いすに座っている時に友達がかけてくれた言葉だ。その時とても痛くて、しっかりお礼を言えなかった。そうじをする時も、「ごめん、お腹が痛いから座っててもいい。」と聞くと、同じそうじ場所の友達はイヤな顔をせず、了承してくれた。それだけではない。迷わくをかけているのに、「いいける？保健室行ってきたら。」と言ってくれた。

その日、色んな人が心配して声をかけてくれたのは、とてもうれしかった。心の中で、何かその友達がこまっていたり、なやんでいたら、今度は私が助けたい。今回助けてくれたお返しをしたい。と思った。

私は、私のことを思ってくれたことがとても心に残っている。やさしさや思いやりの気持ちは、相手の記憶にとても深く残るのだ。今回のことをきっかけに、私自身の思いやりについて改めて考えてみた。

「自分は、友達に思いやりの心を持って接することができている

か。」「友達だけではなく、身の周りのクラスメイト、家族にできているか。」と考えてみた時、思いやりを感じることはたくさんあるけど、自分は全然できていないと気づいた。特に、仲の良い友達には思いやりの心を持って過ごそうと、心がけているつもりだ。でも、今思い返すとできていないことが多い。自分が何かしている、自分のことで精一杯になってしまい、周りが見えなくなる、ことがある。例えば、仲の良い友達と一緒に着がえている時、友達が忘れ物をしてしまい、どうしようとかまっていた。でも、私は委員会に行かなければいけなかった。自分のことを優先して、友達に目を向けることができなかつたことがある。そして、あまり仲良くない人にはなおさらできていない。それは、きれいな人に関わるのはいやだし、そもそも何かしてあげたいと思うことが少ないからだと思う。

私は、みんなからやさしくしてもらっているのにそれを返せていない。だから、これからはこまっている人がいたら、

「どうしたの。」

「何かできることある。」

と進んで聞いてみることにする。でも、いやいやするのは、だれのためにもならない。たとえば、相手のために何かしたところで、それは思いやりの気持ちを持ってないからだ。思いやりのなさが相手にも伝わってしまうと、自分も相手もいやな気持ちになってしまう。だから、いやいやするのは少しちがうと思った。自分も相手も良い気持ちになれるように、助けたいと自分から思った人にやさしく、思いやりの気持ちを持って、接することが大切だと思う。自分が「だれかのために何かしたい。」と思ったら、全力で支えたいと強く心に決めた。

人にやさしくしたり、思いやりのある行動をすると、それが自分に返ってくるというが、本当にその通りだと思った。だれかのために何かをすると、そこには「笑顔や感謝」が生まれる。そして、まただれかのために、と続いて行く。これは、すばらしいことだと私は思った。

明日から、まずは身近な人に思いやりの気持ちをこめて、接しようと思う。これは、社会を明るくするための第一歩だと思って。

